

年間第 17 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 7 月 25 日 (日)

《 2.8 % の塩分 》

主の平和！

皆様この一週間暑くて大変だったのではないのでしょうか？ 私も大変でした。

今日の福音（ルカ 11・1-13）は二つのテーマがあります。一つは『主の祈り』について、二つ目は『求めなさい、探しなさい、叩きなさい。』と良く耳にする事です。『主の祈り』については今日発行の太田教会広報誌（アニユス）に詳しく載っていますので、そちらをよくご覧になって下さい。

ある弟子達の群れの中で一人が立ち上がり、前に進み出て先生にこのように質問します。「この世を私達はどうすればいいのでしょうか、ぬかるみの様なこの世の中で私達が何の役に立つのでしょうか？」そうするとその先生はこのように答えます。「無駄に思わず、あなたが清い水一滴になりなさい」と。その先生の答えがどういう意味か弟子は分かりませんでした。弟子は、「このめちゃくちゃな世の中で自分が水一滴になって何の役に立つんだろう」と思いました。先生はその弟子の心を見抜いて、話を続けます。「過去も、現在も、そして未来も変わらないことがある。それは、泥濘のようなこの世の中に、清い水一滴になろうとする人によって、この世が保たれたし、保っているし、保つことになる事である。だから、あなた達も一滴の清い水になろうと頑張りなさい。」と。

今日の第一朗読（創世記 18・20-32）でも同じ話をされています。アブラハムが天使に「10 人正しい者がいればこの町は滅ぼさないのでしょうか」と質問します。天使は 10 人いれば滅ぼさないと答えた話です。しかしその 10 人がいなくて、ソドムとゴモラが滅亡されることになったという物語は私達がよく知っています。

皆様に質問します。地球の 2 / 3 は海であるのをご存知だと思います。それではその海の中の塩分は何パーセントでしょうか？ その塩分によって海は天地創造の時から今まで腐らないで命を抱きしめています。覚えて下さい。塩分はたったの 2.8% です。3% にもならないたったの 2.8% の塩分によって時代が変わっても、世の中に変化があっても、海の中は腐らないで保たれています。

私達はいろいろな不都合な事を世のせいと批判をし、こんな世の中腐ってしまってもいいと逃げる事を考えます。しかし 2.8% の塩分になって、それを保とうとする努力が真の私達信者の正しい姿勢だと思います。世を批判する姿勢より、世を憐れんで下さい。そして自分の目の前で悪い事をする人を見たら、まず慈しみを感じ、何故そのような羽目に陥ったのかを憐れみを持って、その人も一緒に癒されるように、塩の役割をしなくてははいけません。非難する事だけではこの世はよくなれません。それは“互いに愛し合いなさい”とおっしゃったイエス様の言葉を思い起こして実践する事によって可能になります。神様が出会わせて下さった全ての人に最善を尽くして関わり合いなさいという事がイエス様の御心だと思います。ただの 2.8% の塩分によって今、そしてこれからの海が保たれる事をもう一度考えながら、天使が 10 人だけのやさしい人がいればこの世を滅ぼさないと言った言葉の意味をもう一度考えて、又自分の事を振り返ってみましょう。

ありがとうございました。